

観音山だより

北部埼玉自然観察グループ

里モミジの観音山観察会

11月11日（土）、「観音山晩秋の観察会」を開催しました。総勢11名の参加者を迎え、里モミジの観音山を満喫しました。

龍泉寺の大屋根越しに見えるアカシデの紅葉は、アカマツやアラカシの濃い緑とのコントラストで一層輝いて見えます。鐘楼の隣の柿の木の実甘いかな渋いかななどと話ながら山に入っていきます。

たくさんのしかも大粒の実を落としたコナラの木の下で、ドングリの根の出方を観察したり、ヤブコウジの赤い実を愛でながら進みます。足元には、コウヤボウキの花とカシワバハグマの綿毛が揺れています。ドライフラワーのようなオケラの花柄やヤマユリの実なども観察しながら登ります。

ここ数年、ずっと観察を続けてきた頂上付近の鉄塔跡地は、ヌルデとエノキ、それにヒメコウゾの若木を残して刈られてしまいましたが、来年どんな表情を見せてくれるか楽しみでもあります。北側斜面の藪にヒヨドリジョウゴがルビーのようなたくさんの実をつけており、目を楽しませてくれました。

山を下ると、10月の台風で倒れたのか、大きなクヌギの切り株が横たわっています。芯に洞が空いていますが、それでも80くらいの年輪を数えることができ、樹齢はおそらく100年を超えるだろうと推定しました。

西側の山裾では、ガズミの実を味わってみたり、ヤマコウバシの香りをかいでみたり。

薬師堂まで行って、参加者に色見本を渡し、思い思いに落ち葉や木の実草の実などとの色合わせをしてみました。あまりにみごとに一致に皆で感嘆しながら笑い合いました。

その後も、ガガイモの実を見つけ絹のように光沢のある綿毛の美しさに感激したり、クチバスズメの幼虫を襲うヨコヅナサシガメをじっくり見たり、産卵を終えたばかりのジョロウグモを観察したり・・・。

楽しく興味深い時間はあっという間に過ぎたのでした。



皆伐された東側斜面（カタクリ群生地）でコナラの芽生えを観察しています。



台風で倒れたクヌギの切り株を調べています。



ガガイモの実。中から綿毛のついた種が顔を出しています。